

譯文

和歌山和歌浦灣及大崎灣附近之紀伊水道内

認爲和歌浦灣内之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道

一和歌浦灣及大崎灣附近之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
並其爲禁漁所區域内之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
總業者有紀伊水道内之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
スルコトヲ得別紙見取圖ニ示シタル令及區域内之制限
記載ヲ不限り漁業者ヲ許可セザルモノトス 漁船航行ニ
後達スルモノ左記制限ヲ詳シス

(a) 制限區域ノ指定
一和歌浦灣附近之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
及大崎灣附近之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
水成ヲ航行セシメタル漁船ハ別紙見取圖ニ示サレタル指定
航行道路ニ依リテ航行セシメタルモノトシテ航行ニ當リ
於テ之ヲ行ヒ且ツ下記(一)及(二)ノ規定ニ依リテ航行ス

(b) 和歌浦灣附近之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
一和歌浦灣附近之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
歸還スルル時ハ和歌浦灣附近之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
航行道路及七水工橋基地ニ近接セル水域ニ於テハ漁業者ハ
書面ニ於テハ許可セラルヘシ 夜間是等ノ水域ニ在ル漁
船ハ他船ノ向テ通過セシメザルモノトシテ航行セシメラル
漁船ハ射張マシムルコトナラズ

(c) 和歌浦灣附近之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
一和歌浦灣附近之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
水上出港認可並ニ和歌浦灣附近之紀伊水道及大崎灣附近之紀伊水道
求メテ為テ通行米海軍取締船(該米海軍取締船ハ橋
頭ニ國際ノ旗ヲ掲グ)ニ向テ航行ス
一每日日出ヨリ一時間後(北緯三十三度ノ海上ニ待機中)
米國海軍取締船ハ漁船ニ先行シ制限水域通過ヲ
許シ得ス
一 日没ニ時間前(和歌浦灣附近之紀伊水道方面ニ待機中)

該取締船ハ帰還漁船ヲ和歌浦湾附近ニ誘導スヘシ
 紀伊水道内認可漁場ヘ若クハ該紀伊水道漁場ヨリ
 和歌浦湾ヘ至ル漁船ノ航行ハ夜間之ヲ許サザルベシ
 投錨地並ニ水上機基地直接スル水域ニ於テハ漁業
 ハ晝間ノミ之ヲ許可ス夜間右水域内ニ在リ又ハ船飛
 ハ回ヲ通過シ若クハ之ニ近接セントスル漁船ハ射撃セラルシ
 (d) 大崎湾 大崎湾附近ヨリノ漁船ニテハ紀伊水道ニ
 於ケル認可漁場ニ航行シ若クハ大崎湾ニ帰還セントスル
 指定ノ航行進路ニ依ルベシ漁場ヘ航行若クハ漁場ヨリ
 ノ帰還ハ夜間之ヲ許サズ投錨地及ヒ水上機基地
 区域ニ近接スル水域ニ於テハ晝間ニ漁業ニ従事スル
 コトヲ許可ス夜間右水域内ニ在リ又ハ船舶ノ間ヲ
 通過シ若クハ之ニ近接セントスル漁船ハ射撃セラルベシ
 ニ上記規則並ニ之ガ修正規則ハ關係漁業者全部ニ
 之ヲ告知スベシ

一九四五年十月九日

米國海軍少將 A. G. ノーブル

附屬物

紀伊水道漁場及制限漁獲水域ノ見取圖

古

和歌山ノ防務参考事官宛 終我連絡係ノ書數今迄ノ分ヲ一括
送付方ニ取計シレシカ
九月二十一日 京都ヨリ電話ニテ受 (尋常局)

圖定規格 B5 (15 × 10.5)

大日本帝國政府

九月二十日 調査團長 *W. J. ...* (代將)ヨリ中村公使ノ得タ
内報ニヨリハ予六軍進駐ノ予定ハ左ノ通

一、中部軍管區

イ、九月二十五日 和歌山ニ上陸ノ軍ハ第一軍團總數四百二十
ニシテ其ノ内 神戸ニ進駐ノ軍ハ第三十三師團一方一千
京都 予三十三師團ハ内ノ四千

同ジク京都ニ第六軍司令部管區二千乃至三千

右ノ外大阪 奈良 和歌山ノ各地ニ駐屯ス

九月二十七日 上陸ノ軍ハ第一軍團 予九八師團 二万三千
ニシテ此ノ内大阪ニ進駐スルハ八千乃至一万三千

和歌山ガ一万乃至一万五千 中國兵 第四十一
師團 一万九千 (上陸ハ九月二十八日)

武

家既不...

圖定規格 B5 (15 × 10.5)

大日本帝國政府

四国高知ハ予二十四師團 一万二千名 (十月二十五日)

岡山 予二十四師團 五千名 (十月二十六日)

九州佐世保 海兵 予五軍團 (九月二十二日) 三万六千

海兵 第二師團 (九月二十六日) 二万七千 此ノ兩者ハ
九州各地ニ配置ノ予定

福岡下関 予三十二師團 二万七千 十月十六日 佐世保
ニ上陸後 北九州ノ福岡下関方面ニ向フ

二、東海軍管區

第六師團 二万五千 内五千ハ敦賀ニ進駐 (十月二十五日)

予二十五師團 二万五千 四日市ニ上陸 (十月二日)

ナホ中村公使ヨリ各地区ノ収容力ニ應ジ兵力ノ配置ヲ行フノ必要
アルベキヲ指摘シ予一軍團司令部ハ奈良ヲ予定シルカ奈良ハ
家屋ノ稠密アルベク神戸モ同様ナリ付大阪姫路ガソレゾレ適當
ナル日説明セルトコロ是方ハ當地調査ノ結果決定セント申シ居リ
ナキ是方ハ學校ノ使用ノ原則トシテ予定シ居ラサル日説明セ

案

A-1-0-0-2

昭和三年十月三日

和歌山陸軍連絡事務局

局長 佐藤 敏人

終戰連絡中央事務局

總務部長 井口貞夫殿

進駐軍上陸準備ニ關シテ和歌浦碇泊中ノ米海軍先任指揮官リックス少將ヨリ當地出張中ノ我海軍連絡官安住大佐ニ對シ列紙ノ通指令有之タル旨直ニ縣當局及關係方面ニ手配方依頼シ九月二十三日リックス少將ヲ巡洋艦「モシテペリア」號ニ訪問シ各種措置ニツキ報告ヲナシ全部解決セリ各項ニ關スル措置要目左ノ如シ

一 第一項乃至第三項全部措置済

記帳済

二第四項ハ當方ニ米陸軍ノ要望ニヨリ手配濟ナクシテ海軍側ニ
ハ要球ヲ撤回ス

四ハ無線電話機ハ我方ニテ入手不可能ノ旨説明セシ處今後ハ波止
揚詰米海軍ト通信所ヨリ適宜小官ニ連絡スル事トシ其ノ詳解
ヲ得タリ

四及ハ本機及海軍局、海軍代表者等ヲテ調製水之ヲ手交ス
ルハ巡察團用自動車等ハ二十四日取敢ハ六萬金ノ準備ヲ整ヘ待
機セシメアリタルモ當日ハ遂ニ使用申出ナカリキ然ルニ其ノ後時々
如クシテ神戸大阪方面行自動車、案内ノ通訳ノ旨ヲ求メ

第ナルが常時海軍ノ爲ニ此レ等ヲ保留シ置クニトハ海軍側
題トシテ殆ド不可能ナルヲ以テ海軍側ノ要求充足ニハ其ノ都度
異常ノ困難ヲ感シタツアリ

地誌

和歌山縣 陸軍省 陸軍省 陸軍省

十月二日一般狀況報告第四節

陸軍省 陸軍省

A'1.0.0.2

<p>(一) 將兵ノ大體上陸ハ廿五日ヨリ四日同ニシテ大體終了シタルガ神戶基地 (Kobe Base) カ當地ニ開設セラルルオケレン (O.K. System) 代傳義下司令部員駐留スルコトナリ 第三工三、第九十八兩師團等近畿方面進駐軍一、軍需品陸揚ハ全部當座行ハルコトナリ</p> <p>以テ、日々陸揚量ハ使役人夫及列車ノ動キニ見ルセ、今尙減サシ居ラズ、右ハ今後神戶ノ掃海ガ完了スル迄 (相當長期間カカルベシ) 繼續スルモノト觀ラル、他方上陸ニ接カ護ノ為米船セル艦船ハ戰艦、巡洋艦、駆逐艦、水上機、詳輸送艦、水陸兩用舟艇等數百隻ニ及ビ艦隊將兵、上陸ハ毎日ニ千人以上ト推セシ、市内相當賑合ヲ見セ、土產物屋敷敷用設セシ、慰安所等々、警備品ニ警備奉事致セ、毎日數十件ニ上リ、損害等々モハ、本官ヨリ書面ヲ注意ヲ喚起シ居レリ</p> <p>能ラズ、將兵ノ為健全應安施設等ヲ考慮シ居レリ</p> <p>目下駐屯軍ノ要望ヲ提供シ居ル人大一日四千人未満 通譯機</p>	<p>人 自動車約千台ナリ</p> <p>(二) 和歌山駐屯中ノ將兵ハ在和歌山神戶基地司令部ノ下ニ工兵特別旅團 (荷揚専門、司令官ハウヰグ代傳) 工兵、ホート、アト、シヨト、騎隊、其他兵站、兵器、病院、通信、戰車、鐵道輸送、航空技術、化學研究情報、憲兵等ノ各部隊ヲ含ミ、總數一万余至一万余ト推算セシ</p> <p>(三) 陸軍省ニ提供スル土地運物等ハ十月十日迄九工件ニ上リ、前四報後</p> <p>ノ全ナルモノ</p> <p>イ、住反釜運物大部土地百万坪 (宿舎及資材集積)</p> <p>ロ、大日本油脂運物 (港灣司令部 及 宿舎)</p> <p>ハ、和歌山、同德、東栄、不元能、温泉ナリ (何レモ陸軍省)</p> <p>ニ、海軍市新田別荘 (陸軍省)</p> <p>ホ、紀伊南岸市中内戦災燒跡六十万坪 (野量及資材集積)</p> <p>ヘ、市役所燒残ノ運物及土地 (資材集積)</p> <p>ト、和歌山、浦田場別荘 (海軍市ヨリ、パトロール宿舎)</p>
--	---

和歌山縣

上野山納

(四) 本月九日迄、兵員至、兵器其他軍需物資輸送状況、鉄道側より得る情報に依る概ね右通

イ、兵員輸送(自九月二十五日至十月九日)

列車数 四六

車輛数 五五九

右に依り輸送兵員数 三六一三三五人

兵員輸送、右鉄道輸送、外濱孝公園、陸送シタル、約四千人に達

スル見込に依り、合算セシ、約四万人ト推算セラル、高艦艇ニテ輸送待

機中、兵員高約二千人見込ナリト云フ

ロ、兵器其他軍需物資輸送(自九月二十五日至十月九日)

列車数 六

車輛数 一三三四

右に依り輸送貨物数量約一八八六噸

貨物輸送、兵員の場合と同様陸上輸送に相劣ル筈

和歌山縣

尚貨車行先ハ十月六日迄、状況に依り、諸軍(大阪大倉船行場)行、四一

車輛ヲ筆頭ニ神戸港行ニ、車輛、梅ヶ路(支部)行、九八車輛、

梅田行、九四車輛等之に次ル

昭和二十年十月十五日

昭和二十年十月十五日 第五號

總戰運總和歌山事務局長佐藤敬

總戰運總中央事務局

總 裁 啟

總戰運總和歌山事務一級水災報告一併

十月十四日一級水災報告第五號

事務提供

九月十五日第六軍主力和歌山港上陸以來、麻生軍側、業務者提供、要求ハ、二十五日、二十六日、二十七、二十八、二十九、三十、今日尚、右所要求、充足方強、要求ニ奉答、縣當局ニ在リ、極力努力ヤリ、先市内隣組、勤員ニ依リ、千餘名ヲ得、更ニ大坂ヲ動員、勤員三百人、應援ヲ得タルニ、到底麻生軍、要望ニ達セザルヲ以テ、附近市町、隣組、勤員、ルト共、一般募集ヲ行ヒ、更ニ近畿各縣ヲ、應援ヲ依頼シ、茲數日間、約三千五百人、調達ヲ得タルニ、未ダ充分ヲ要致ニ達セズ

和歌山縣

縣ニ在リ、市外ヨリ、出稼者、對ニ、麻生軍ト、協議ノ結果、任友、全、及ニ、電機、機、器、ヲ、使用シテ、宿泊所、ニ、充テ、一般出稼者、對シテ、ハ、麻生軍、側ニ、於テ、食糧、衣類、兩具、等、ヲ、貸與スルコト、ニ、右様、勸誘、策、ヲ、講シ、居レリ

尚、縣、軍、ニ、在リ、ハ、一般的水道、復旧、道路、修繕、ニ、縣、市、當、局、ニ、協力シ、度、自、甲、出、来、リ、之、カ、為、ニ、水道、修繕、約、二百人、道路、修繕、二百人、既ニ、就、業、ヲ、開始、セリ、又、近、畿、各、府、縣、ヲ、大、量、應、援、(約、二千、人、見、込)、ハ、十月、十六、日、ヲ、開始、セリ、

序ニ、和歌山縣、在リ、ハ、此種、一般、業務、者、賃、金、ハ、一日、大、圓、但、深、夜、作業、ハ、七、圓、五、拾、錢、ニ、決定、セ、レ、居、レリ

二) 疎業禁止ノ緩和

和歌山附近海面及、和歌浦灣、内、ヲ、始メ、紀伊水道、及、全、入、口、内、若シ、ハ、紀伊海峡(左ノ函木道)若シ、ハ、岬門海峡、内、ニ、在リ、船、艇、類、ノ、航行、移動、ハ、當時、海軍、司令、官、リ、ッ、ガ、ス、ヲ、要、求、シ、依リ、麻生軍、和歌山上陸、開始

上野山

前、九月三日乃至九月四日深夜之時以降之ヲ種々レテ居ルカ、十月二日附
 井口總務部長(公信寺島)在禁上、繼續ハ數萬ノ沿岸漁夫ヲ禁、家漁
 ノ生活及縣下食糧補給上相當重大ナル困難ナル關係上先般本野經
 済第一部長ヲ在禁上緩和事情方願出マリタルノ以テ縣令軍側ニ對
 ニ此旨傳達申請、結果十月九日附、津濱船航行規則ヲ十月十日當
 事務局長送達裁キ、右依ルハ和歌山及大崎方面ヲ、津大ハ指定セラ
 レタル進路ニ依ル限リ自ラ出航スルコトヲ得、但和歌山方面ノ漁船ハ米
 海軍取締船ノ誘導ニ依リ日出後一時間後ニ出航シ、日没前ニ時間前ニ
 帰還スルヲ要スルコト、ナリ居レリ(右規則別紙ニ添附)

和歌山縣

和歌山県 和歌山市 和歌山港 和歌山港 和歌山港

和歌山港 和歌山港 和歌山港

和歌山県

電信寫

同收電をD2401/2
Ri
A/10.0 2

一一一八 受信一〇二〇 譯了一二三五

發 京都府終戰連絡事務所秋山支部長

報 終戰連絡中央事務局總裁兒玉少將

占領軍ノ進駐ニ關シ地方廳ハ概シテ無事進駐ヲ報告シ居レモ米兵ニ依ル強奪竊盜乃至無錢飲食等ノ不正行爲ニシテ調査漏ノ例モ相當數ニ昇リ居ルヤニ聞キ及ヒ居ル處先般第六軍軍政部長ト會談ノ折米兵ノ不正行爲防止策トシテ進駐軍側ニ於テ米兵ニ身分證明書ヲ交付シ買物等ノ場合ハ右ヲ表示セシムル事トシ我カ方ニ於テハ石證明書ヲ示メササル米兵ニハ警戒セシムル如ク民間ニ承知セシメテハ如何トサチエストルセルニ先方ハ右ノ名案ナル可シト贊意シ居リタルカ石我カ方ヨリ提議ノ形ニテハ軍ニ干渉トナルニ付單ニ先方ノ自由ナル決定トシテ右ノ如ク實行方取計可然ヤ學口至當カト存ス何分ノ儀御同返相燭度

記帳簿

外務省

0422

P/204

和二〇 一一九九一 平 和歌山 十二月四日一三〇〇發遲四
本 答 四日一七五〇着

兒玉總裁

至急)

(駐屯軍用物資ニ關スル件)

地駐屯部隊ハ本月十五日頃迄ニ一部他ニ移動スルコトトナリ其結果不用トナルヘキ徵發物資及違物ハ當事務局ヲ通シ持主ニ返ササル模様ナリ(了)

(説字多ク判讀不可能照會ノ爲遲延セリ 電信課)

記帳簿

0423

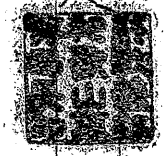
終戰連絡部一役

和歌連第七號

昭和二十年十月十日

終戰連絡和歌山事務局

局長 佐藤敏人



0424

終戰

終戰

終戰連絡中央事務局

總裁 兒玉謙次殿

一般狀況報告

(一) 軍隊の動靜

第五四四工兵ポルトランドシヨア聯隊及第七六七戰車大隊ヲ除キ
駐屯部隊ノ大部ハ福岡、佐世保、神戸方面ニ移駐スル趣ヲ兵站
司令官オクデン准將ハ十二日吉地出發九州方面兵站司令官トシテ
福岡ニ赴キ当地ノ神戸基地司令部ハ解消シ新ニ地域司令部ト

和歌山縣

シテ、ウオルン大佐(前記聯隊長)任命セラルルコトナリ「シリヤ
ー」ガバーメント「ハ從來通リ」繼續スル由ナリ、尚十一月一二三日間「真
リ岡崎」名古屋ヨリ第六軍關係約五千ノ將兵鐵道便ニテ和
歌山到進但「巨大運送船」マン「號」ニテ「帝國」ナリ
尙白浜白良在二十月十五日ヨリ兵卒ノ遊覽地ヲ設置直ニ二日間百
五十名宛「泊中」ナリ「モ」十一月六日「以」一「旦」打切り閉鎖シタルモ近
ク再開ノ模様ナル由

(二) 艦隊の動靜

和歌浦灣ニ於ル米艦船ハ進駐軍上陸以來各種艦船(大型
水上飛行機「含む」)去來シタキトキハ百隻以上少キトキモ五
十隻又以上「送油」シ居リ水兵「上陸」ハ毎日數千ニ及ヒ九月二十五日
ヨリ「將校俱樂部」將兵用「遊園地」十一月十四日ヨリ大島及十月
二十日ヨリ地ノ島「設置」セリ

(三) 港務官關係

從來船上ニアリシ港務官ハ十日ヨリ和歌浦米榮旅館ニ陸上事務所ヨリ開始セリ。百噸以上ノ鋼鉄船ニラ當地港務官ノ出港許可シ得タルモノハ三隻ナリ。尚港務官カ第五艦隊ヨリ受ケタル情報ニ依レバ十二月十五日以後對島、五島、諸島ヲ含む日本本土諸島港灣間ハ出港許可シ要セサルトナル趣ナリ(原文添付)

四) 勞務提供

十月ニ入り深夜作業廢止セラレ一日三千人内外トナリ二十三日迄一月間延人員土万六千餘ニ目下ハ東聯合軍ト要望ニ充分副ヒ居リ何等苦情無シ

五) 武器彈藥ノ處分

(イ) 十月七日ヨリ勝浦ニ於テ九十八師將校大段ヨリ到來武器彈藥ノ處分(海中投下)ヲ開始シ尚繼續中ニシテ本年申位カハル見込ナリ

(ロ) 十月四日ヨリ山本大尉(陸軍)監督ノ下ニ加太町沖合沖ノ島

和歌山縣

砲台爆破及彈藥處理作業ヲ開始シ約一ヶ月間概ル見込

(川) 縣下民間所有(學校等)ノ武器ハ九十八師將校監督ノ下ニ

六) 接收土地建物等

十月以後聯合軍ト接收セル建物土地物資ハ十二月十日迄二百九十九件トナリ累計二百七十六件トナリ内主ナルモノハ

イ、雜貨崎沖大島(遊園地)

ロ、西海軍學校(宿舍)

ハ、木材、炭、石炭、硝子板、椅子、テーブル、飲食器等多數リ

December 7, 1945
L-1669-GR-56

Commencing 15 Dec. Japanese Merchant Vessels granted blanket authorization sail between ports in four main islands of Japan and islands immediate vicinity including Thushima, Gotto Retto, ^{Nansei?} Nansei Shoto as far south as Latitude 30 degrees. But ^{Kuril?} not, Sakhalin or Kure. Japanese vessels departing Japanese waters still required authorization from SOAJAP. BT-----

Action Addres: Garbled (Possibly all PD's) Japan, Fifthflit,
AFD 85

Army RDO Tokyo
G/C Pearl

0426

A-1-0-0-2

軍令

總戰連絡中央事務局 第四號
昭和二十一年二月二日

總戰連絡中央事務局總裁
西日本各地方終戰連絡事務局局長
地方商工局長
地方長官 殿



總戰連絡中央事務局
局長 秋山 照敏



0427

西日本ニ於ケル米軍政組織(覽表送付ニ関スル件)

西日本米軍政組織ニ関シテ八農二月二十六日附京連亦五七號ヲ以テ
不取敢御通知致置タル処其ノ概判明セシムル軍政官氏名等五頁之一覽
表作成セリ予以下御參考迄茲許送付ス

(同文送付先)

總戰連絡中央事務局總裁
西日本各地方終戰連絡事務局局長
地方商工局長
地方長官

昭和十一年二月二日 (2 Feb.)

西日本ニ於ケル米軍政組織一覽表

終戦連絡京都事務局

軍一團	軍政部	軍政中隊(及軍政部)	管轄府縣	備考
第一軍團司令部軍政部(京都市大建上)	第百七軍政部(業七)	第三十二軍政中隊(神戸市)	兵庫縣 京都府	Lt. Col. Scott
		第八十三軍政中隊(奈良市)	奈良縣 三重縣	Lt. Col. St. Clair
		第三十軍政中隊(名古屋)	愛知縣 靜岡縣 岐阜縣	Maj. Balch
		第百三軍政部(敦賀市)	滋賀縣 福井縣	Lt. Col. Hyland
		第九十軍政中隊(金澤市)	石川縣 富山縣	Maj. Barke
	第百九軍政部(大阪府)	第二十九軍政中隊(佐賀縣)	長崎縣 佐賀縣	
		第三十七軍政中隊(山口縣)	福岡縣 山口縣	
		第九十二軍政部(未定)	鹿児島縣 宮崎縣	
		第九十三軍政部(未定)	熊本縣 大分縣	
	第百十四軍政部(兵部)	第七十六軍政中隊(吳市)	廣島縣 島根縣	
		第三十六軍政中隊(岡山府)	岡山縣 鳥取縣	
		第九十一軍政中隊(高松市)	愛媛縣 香川縣	
		第八十一軍政中隊(高知府)	高知縣 徳島縣	

備考

1. 本圖 米軍政組織ハ昭和十一年一月十日日本第一軍團司令部軍政部

Maj. Schmidt 列終戦連絡京都事務局ニ通知スルニ付

- 2. 軍團司令部軍政部 ————— Military Government Section
- 軍 政 部 ————— Military Government Group
- 軍 政 中 隊 ————— Military Government Company

3. ①即ち main office ②即ち branch office 所在府縣ヲ示ス branch office

所在府縣ニアリテハ夫々府縣所在地ニoffice設置セラレアリ

廳

昭和二十一年十二月十四日
本館 加藤事務局長

宛 玉 裁

和第一號(至急)

(運送事務所沈没ニ關スル件)

當地ニ本部ヲ設置シ后リタル神戸地區司令部ハ今向所所屬スルコト
ナリ司令部「オクデン」偵察ハ九州方面兵站司令部「九州ベイス
ンマンディングセネラル」トナリ十一日夜當地發艦隊ニ赴キ艦隊
大部カハ十二日特別列車ニテ當地ヲ出發セリ駐屯部隊第五四四「
ンチニアボート」アンドシニア「聯隊第七六七」艦隊ハ其ノ艦隊
ニ駐留シ其ノ他ノ大部カハ福岡、佐世保、神戸方面ニ移駐ヲ開始
本月下旬迄ニ完了スル隊是ナリ地域司令部「アレアコンマンダー」
前記艦隊長「ウォルシユ」大佐トナリ「ミリタリ、ガバメント」
來通リ繼續スル田ナリ

京省ノ大隊、福岡へ轉

P1204

訂 正 報

十二月十五日著在和歌山事務局長發和第一號(至急)本文中左記ノ
通り訂正方通報せしニ付可然御取計相成處

電信課 連一

行目

正

- | | | | | | |
|---|---|----------|--------|--------|---------|
| 一 | 誤 | 地區 | スルコト | 基地 | スルコトト |
| 二 | 誤 | 「九州ベイス | 大部分 | 九州米「コ | ノ大部分 |
| 三 | 誤 | 駐屯部隊 | 駐屯部隊 | 駐屯部隊中 | |
| 四 | 誤 | ンチニアボート、 | エウチニアボ | エウチニアボ | ウト、アンド、 |
| 五 | 誤 | 其ノ儘當 | 其ノ儘當 | 其ノ儘當 | 地 |
| 六 | 誤 | 開始 | 開始 | 開始 | |

八 前記艦隊長

八 前記艦隊長

九 來通リ

九 從來通リ

十二月十七日

以上

電信寫

P.1.20.4

和一二〇
 平 京都 十二月二十七日 一五〇〇 發
 本省 二十七日 一五〇〇 着 祕 遲一
 秋山事務局長

兒玉總裁
 第七九號

(吳地區米軍移送ニ關スル件)
 吳事務局長發覺總裁宛電報第二五號ニ關シ
 岡山ニ連絡機關設置ノ場合當事務局ヨリ人員ヲ割クコトハ至難ニ
 付右豫メ御含意アリ度
 吳事務局へ轉達セリ

外務省

託渡済

總務部
 秘書課
 和歌連第壹號
 昭和二十一年一月五日
 終戰連絡和歌山事務局
 局長 佐藤敏人

秘書課長
 昭和三十二年一月五日

終戰連絡中央事務局
 總裁 兒玉謙次殿

一般状況報告第八號

一司令部名稱変更
 従来當地司令部ハ和歌山駐在神戸基地司令部(神戸ベース
 メント 和歌山)ト稱シタルカ 神戸基地解消ト共三十二年下旬ヨリ
 和歌山兵站司令部(和歌山サプライメント)ト改稱シ管
 轄區域ハ従前通ナリ

和歌山

連 21.1.26 秘書課

21.1.25

二、港務関係

旧曆十二月十五日ヨリ日本本土諸島間ノ航海ニツキ出港許可ヲ
西支ヒサルコトナリタルモ百噸以上ノ鋼船ニツイテハ出入港ニツキ通報
ヲナクヘキト曰日附港務官ヨリ指令ニ来レリ

三、掃海作業

米掃海艦隊ハ十二月以來紀伊水道ヨリ神戸港ニ向ヒ掃海作
業中ニテ一月中ニ完了スル見込ナル由尙附近漁船及船舶
カ作業妨害ノ恐アル故関係者ニ警告告方指令アリタルヲ以テ
関係府縣ニ注意方指置セリ

四、労務関係

十二月入り労務ノ要求ハ漸次減少セリ同月下旬ニ於テ一日一千
又内外トナリ二十三日止一ヶ月間通人負七万一千餘ナリ累計
二十七萬九千三百三十九人ナリ

五、調解物交買

十二月末迄ハ接收物交買ハ三百六十件ナリ尙旧曆連駐軍移
動ノ為宿舎ニ充テタル旅館其他空屋トナリタルモノアルモ右ハ暫ク
其儘保留スヘシトノ通報アリタリ

和歌山縣

和歌山縣

昭和二十一 二九六 年 本取 一月二十九日一三〇〇發 連總

兒玉總裁 小務事務局長

第二〇號(至急)

(進駐聯合軍兵力配置ニ關スル件)

一月十二日海路總ノ一普通合第一〇號ニ關シ
進駐軍兵力配置ニ關スル件ノ其ノ調査方法ニ付中央ヨリ特別御注
意ヲ向テモ配置ノ表ノ作成等ヲ要求シタル爲地方事務局長ニ於テハ
今後取致ヲ誤リ各地米軍部隊ニ其ノ配置及兵力數ヲ質問シ或ハ
同書ヲ米軍係官ニ提示セルモノハカクテモハニテ米軍將校中ニ
之ヲ侵負軍人ノ秘密圖面ト關係アルモノニ疑ヒ居ル向アリ誠ニ非公
式ニ二三方面ヨリ本官ニ對シ内密ニ紹介シ來レルモノアリ本官ハ
右ヲ以テ連絡官配置ノ參考資料トシテ各事務局長ニ常識的調査ヲ要

電信寫

外務省

電信寫

求セルニ因テモニシテ何等他意無キモノナルコトヲ説
明シ各地事務局長中ノ力取扱方法ヲ誤リタルモノアリタルハ遺憾ナ
ルモ早速中央事務局ノ注意喚起シ置クヘキ旨應酬シ置ケリ就テハ
至急右ノ點ヲ各事務局長ニ徹底セシムル様御措置アリ度ニ尙軍政部
ノ組織變更セラレタル際所カク調査ハ實質的効果尠カクヘク又若
シ此ノ種調査必要ノ際ニハ各地方事務局長ノ手前能力等ヲ豫メ考
慮ニ入レ遺憾無キヲ期セシムル様懇切ニ御指導アラントテ切望
ス (了)

配指先 次官、政局長、政一、文、電、總裁、次長、各部長
秘、總ノ一、二、一、二、三、四、二、一、二、三、四、三、一、
二、三、四、一、二、三、四、一、二、三

外務省

A-1-0-0.2

第一卷
總裁 吉田茂殿

終戰總務部一課

政連方三子号

昭和三十年二月七日

終戰總務大改事務局
局長 小濤 彬

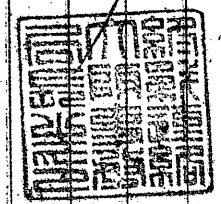
終戰總務中央事務局

總裁 吉田茂殿

進駐軍兵力配置三南三件

一月十二日附書信終總一普通適合方一〇号三三印申
越一件二周一月下旬往電一次方八二七号事務
局關係報告書別添送付申進ス

終戰
21.2.8
秘書課



記帳簿

0437

一七限年

聯合軍進駐狀況

昭和二十一年一月三十日現在

奈良縣		進駐場所		部隊名	人員	進駐年月日	摘要
所府名	進駐場所	個所					
奈良市紀事町	至誠奉公會館		九八師 砲兵隊本部	二〇〇	二〇一〇一六		
" 法華寺町	菅生省 西郡口民動務所		九八師 砲兵九八大隊	三五〇	二〇一〇一六		
" 高畑町	"		九八師 砲兵三七七大隊	一〇〇	二〇一〇一六		
" 檜領町	堺五工業株式會社		九八師 砲兵九三三大隊	一〇〇	二〇一〇一六		
" 菩提町	菅生省菊水館		奈良軍政官 下士官宿舍	七五	二一〇一		
生駒郡毛織村 秋篠	奈良鍛錬場		九八師 歩兵三五〇聯隊	二〇	二〇一〇一六		
山田郡朝和村 浮也	海軍省 大和航空隊		九八師 歩兵三五〇聯隊	〇	二〇一〇一六		
奈良市高畑町 一四九	天理教 御津分教會		奈良軍政官 特設宿舍	二〇	二一〇一〇		
大阪府							
(二) 三重縣		進駐場所		部隊名	人員	進駐年月日	摘要
所府名	進駐場所	個所					
津市	聯合議事堂		八十三師團 軍政部	一八			少佐チリ
高茶屋	海軍工廠		九八師團 三六九大隊	約五〇			大尉センター